

◆第1回地区復興まちづくり検討会について

第1回の地区復興まちづくり検討会においては、構成メンバーの皆様にご覧いただくための材料として、宮古市から以下の資料を提供しました。

詳細については、別添の当日配布資料をご参照ください。

■資料1：「地区復興まちづくり検討会の各回の検討事項」

地区復興まちづくり検討会の各回の日程と検討内容の案をお示ししました。また、各地区の復興まちづくり計画がある程度まとまった段階で地区復興まちづくり計画（素案）の内覧会を開催（平成24年1月14～17日予定）し、検討結果をご報告するとともに意見募集をいたします。最終的には、第2回地区復興まちづくりの会で地区復興まちづくり計画（案）を皆さんにお知らせ（平成24年2月中旬予定）し、ご確認いただいた後に市長への提言を行います。

■資料2：「地区復興まちづくり検討会 規約（案）、傍聴規定（案）」

地区復興まちづくり検討会の規約（案）と傍聴する際の決まりを定めた傍聴規定（案）をお示ししました。検討会の規約（案）では、検討会の目的、活動、構成員、会長及び副会長の選出などについて規定を定めています。傍聴規定（案）では、検討会を傍聴するにあたってのルールを示しています。いずれも、検討会の判断により内容は変更していくものとしています。

■資料3：「地区の現況」

被災前の地区の基盤整備の概要、建物用途の状況、宮古市東日本大震災復興計画基本計画（案）における地区の復興まちづくりの方向性、国土利用計画、埋蔵文化財等の状況、宮古市ハザードマップにおける避難場所や避難ルート、危険区域の状況、震災による被害状況、三陸縦貫自動車道が通る概ねの範囲などについて、既存資料を整理したものをお示ししました。

■資料4：「アンケート調査による復興パターン検討のフレーム検討」

7月に実施した「復興に向けた計画づくりに関するアンケート調査」の集計結果から、今回の震災で被害を受けた世帯数を推計し、そこから地区ごとの住みたい場所、考えている住まいについて推計した結果をお知らせしました。

■資料5：「津波シミュレーション」

岩手県が行っている津波シミュレーションの結果についてお伝えしました。現在、各地区で予定されている防潮堤の整備高さに、3月11日の津波が来た想定した場合、どのくらい浸水するかをシミュレーションしたことになります。田老地区では、海側の防潮堤をTP+14.7m、山側の堤防をTP+10.0m、藤原地区、津軽石地区などの宮古湾ではTP+10.4mで設定しシミュレーションを行っています。防潮堤の整備高さの基準は、国の方針により、これまでで2番目に大きい津波を完全に防ぐ高さで整備することとしており、3月11日のような津波が来た場合、ある程度浸水してしまうこととなりますが、今回より被害は軽減されます。

■資料6：「まちづくりの会で出された意見等」

9月下旬から10月上旬にかけて開催された地区復興まちづくりの会でのご意見や地区復興まちづくり便りに対するご意見、復興に向けた計画づくりに関するアンケート調査（7月実施）の自由記入欄の整理などを行い、地区の皆さんからお寄せいただいたご意見などをご紹介します。